

外為マンスリービューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2013/08/01

金融政策に温度差

通貨ペア	基調		ページ数
<u>豪ドル/円</u>	↓	RBAの利下げは織り込み済みか 予想レンジ: 84.00 ~ 90.50 円	2-3
<u>NZドル/円</u>	↑	NZと米の景況感を確認しながら 予想レンジ: 75.00 ~ 82.20 円	4-5
<u>ランド/円</u>	↓	買い材料は少なく上値は重そう 予想レンジ: 8.90 ~ 10.50 円	6-7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



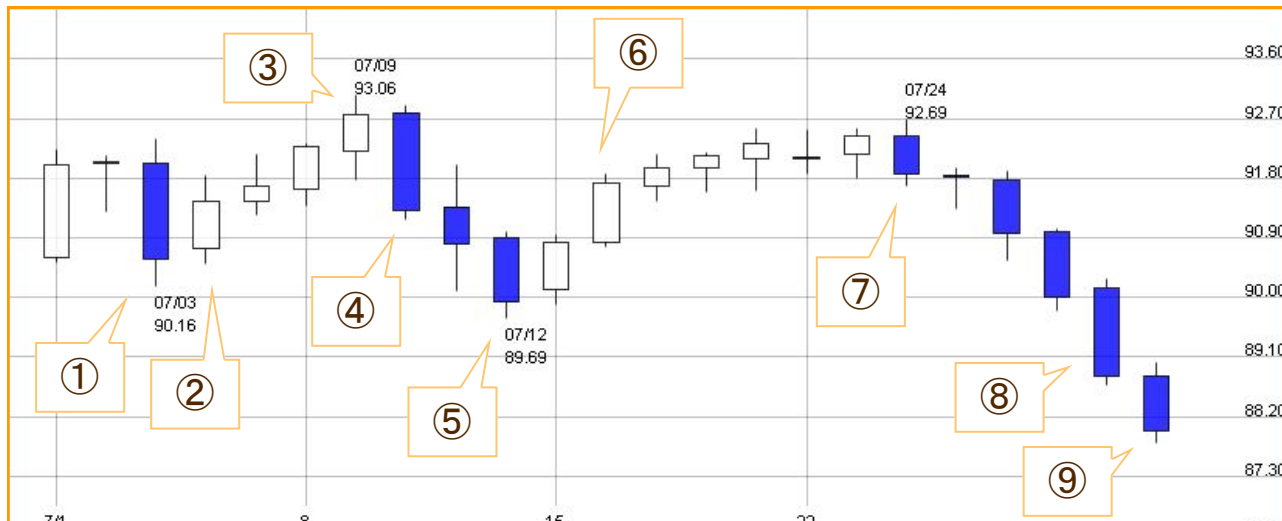
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

AUD / JPY

豪ドル/円 7月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	90.60円	93.06円	87.80円	87.99円



- ① 3日、前日のハト派的内容となった豪準備銀行(RBA)理事会の声明文に続き、スティーブンスRBA総裁が「当面はトレンドを下回る経済成長が続く可能性が大きい」「理事会では金利据え置き決定を巡り『非常に長い時間審議した』」等と発言。欧州株安もあり、豪ドル/円は一時90.16円まで下落した。
- ② 4日、ロウRBA副総裁が(前日の総裁発言について)「軽い気持ちによるもので市場に誤解された」と発言。これを受けて豪ドルを買い戻す動きが優勢となった。
- ③ 9日、前日終盤、米アルミ大手アルコアが2013年のアルミ需要が増大するとの見通しを示したことから欧米株が上昇すると、豪ドル/円は一時93.06円まで上昇した。
- ④ 10日、中国6月貿易収支にて輸入総額が2カ月連続で前年割れとなった事が嫌気され、豪ドル/円は売り優勢となった。その後米FOMC議事録を受けて一時反発していたNYダウ平均株価が再び下げると、一段と下落した。
- ⑤ 12日、(15日発表予定の)中国第2四半期国内総生産(GDP)が弱い内容になるとの噂を背景に、豪ドル/円は一時89.69円まで下落した。
- ⑥ 16日、公表されたRBA議事録にて、金融緩和スタンスは維持するものの「豪ドルの下落を踏まえると政策は当面適切」「かなりの緩和が既に実施された」等が明らかとなり、豪ドル買いが優勢となった。ラッド豪首相の「炭素税を廃止する」との発言も追い風となった模様。その後、対ユーロや対ポンドで豪ドル買いが強まった事を背景に、豪ドル/円は91.86円まで一段高となった。
- ⑦ 24日、豪第2四半期消費者物価の前年比が+2.4%と市場予想(+2.5%)を下回り、豪ドル/円は急落するも、基調インフレ率が同+2.4%と市場予想(+2.25%)を上回った事から、RBAの8月利下げ観測がやや後退して92.60円台まで反発。ただ、その後はNY市場にて著名RBAウォッチャーが次回RBA理事会での利下げの可能性について言及した事を背景に、豪ドル売りが強まった。
- ⑧ 30日、豪6月住宅建設許可が予想外の悪化となった他、スティーブンスRBA総裁の「必要であれば追加利下げを行う余地がある」との発言を受け、豪ドル売りが活発化した。
- ⑨ 31日、史上最高値を更新したNYダウ平均株価が反落すると、豪ドル/円は2012年12月以来となる87.80円まで下落した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

AUD / JPY

今月のポイント

7月の豪ドル/円相場は87.80円～93.06円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約3.0%の下落(豪ドル安・円高)となった。RBAの追加利下げ観測がくすぶる中、豪ドル/円は前半から中盤にかけ豪州の要人発言や主要国の株価に一喜一憂する展開が続いたが、後半に入り著名RBAウォッチャーの見解やRBA総裁の発言を受けて8月利下げ観測が高まると、豪ドル売り優勢の展開となった。

8月の豪ドル/円相場は、まず6日のRBAキャシュターゲットに注目したい。市場では金利先物市場を中心に0.25%の利下げがほぼ織り込まれており、少なくともそれまでは豪ドルを買いにくい地合いが続きそう。仮に利下げとなれば豪ドル売り材料となろう。ただし、利下げ予想が勢いを増した理由に、複数のRBAウォッチャーによる見通しが8月RBA理事会での利下げ観測を助長した面もあるなど、利下げ観測がやや先行している感もある。金利が据え置かれる場合、足下で軟調に推移してきた豪ドルが反発する余地があると見るが、中国の減速とそれに伴う鉱山ブームの終了を見越して緩和的な金融スタンスを維持する可能性が高いことから、豪ドルが上昇したとしても一時的となろう。豪州の金融政策の行方を探る上で、RBAの四半期金融政策報告や議事録、中国の経済指標にも注目したい。

市場の関心が米量的緩和の縮小開始時期に集まる中、先月31日に発表された米連邦公開市場委員会(FOMC)の声明では、その時期についての言質を与えなかった。今月はその時期を見極めるべく、雇用やインフレを始めとする米経済指標に注目が集まる事が予想され、豪ドル/円はこれらを受けた株価の動向が手掛かり材料となろう。(川畑)

(予想レンジ: 84.00～90.50円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
8/1(木)	第2四半期豪輸入物価指数	8/8(木)	7月中国貿易収支
	7月中国製造業PMI	8/9(金)	RBA四半期金融政策報告
	欧州中銀金融政策発表		7月中国消費者物価指数
	7月米ISM製造業景況指数		7月中国鉱工業生産
8/2(金)	第2四半期豪生産者物価指数	8/12(月)	第2四半期日GDP・一次速報
	7月米雇用統計	8/13(火)	7月米小売売上高
8/5(月)	6月・第2四半期豪小売売上高	8/16(金)	8月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
	7月米ISM非製造業景況指数	8/20(火)	RBA議事録
8/6(火)	6月豪貿易収支	8/21(水)	FOMC議事録(7月30・31日分)
	第2四半期豪住宅価格指数	8/22(木)	8月中国HSBCフラッシュ製造業PMI
	RBAキャシュターゲット	8/29(木)	第2四半期豪民間設備投資
8/8(木)	日銀金融政策決定会合(7日～発表)		第2四半期米GDP・改定値
	7月豪雇用統計		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

NZD/JPY

NZドル/円 7月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	76.70円	80.42円	76.68円	78.16円



- ① 9日、前日終盤、米アルミ大手アルコアが2013年のアルミ需要が増大するとの見通しを示した事が材料視された事から欧米株が上昇すると、NZドル/円は一時79.72円まで上昇した。
- ② 10日、中国6月貿易収支が予想より弱い結果となった事を受け、NZドル/円は売り優勢となった。その後公表された米FOMC議事録にて「多くのメンバーは量的緩和縮小には労働市場の改善が必要と判断」等ハト派的内容が明らかとなり、反発したNYダウ平均株価が再び下げると、77.96円まで一段安となった。なお、NZのイングリッシュ財務相が「時期は問題だが、金利は上昇するだろう」と発言した事を受けてNZドル買いが優勢となる場面が見られたが、一時的であった。
- ③ 11日、前日終盤のバーナンキFRB議長の講演を受けて取引開始直後からドル/円が下落すると、NZドル/円は76.68円まで連れて下落。ただ、その後はNYダウ平均株価の上昇を背景に反発した。
- ④ 16日、NZ第2四半期消費者物価が前期比+0.2%、前年比+0.7%（予想:+0.3%、+0.8%）と、NZ準備銀行(RBNZ)のインフレ目標(年+1~3%)の下限を下回った。これを受け、NZドル/円は発表直後に77.87円まで値を下げるも一時的であった。
- ⑤ 19日、中国人民銀行が貸出金利の下限を撤廃すると発表すると、同国を最大貿易相手国とするNZの通貨、NZドルは急騰。NZドル/円は80.07円の高値をつけた。
- ⑥ 25日、RBNZは政策金利の2.50%据え置きを発表。声明では「2013年末までは金利を維持する見通し」とするも、住宅や建設セクターに起因するインフレ圧力が高まると予想し、それに対応するために「将来に金融刺激策の解除が必要になる公算は大きい」とした。これを受け、NZドル/円は取引開始直後から上昇。その後の欧米市場でも材料視され、80.42円まで一段高となった。
- ⑦ 26日、日経平均株価の下げ幅拡大や欧米株の下落を背景に、NZドル/円は79.05円まで下落した。金や原油相場の下落も重石となった。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

NZD / JPY

今月のポイント

7月のNZドル/円相場は76.68円～80.42円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約1.6%の上昇(NZドル高・円安)となった。月を通して主要国の株価や中国経済の動向に左右される場面が目立つも、NZの政府要人やRBNZが将来の利上げを示唆した事によりNZドルが強含む場面も見られた。

8月は、米国では量的緩和の開始時期を探る上で雇用やインフレを始めとした米経済指標に注目が集まる事が予想され、NZドル/円はその結果を受けた株価の動向に一喜一憂する可能性がある。

市場ではRBNZが来年前半に利上げを開始するとの見方が強まる中、利上げ開始時期を読む上で、NZ国内の経済指標にも注目したい。今月、NZ国内では国内の雇用や消費に関する経済指標の発表が予定されており、住宅指標以外にもこれらの分野で堅調さが見られれば、NZドルを押し上げる事が予想される。ただし、期待が先行している分、予想より弱い指標が相次ぐと、利上げ観測がやや後退してNZドルが売られる事もあり得る。その他引き続き、中国経済の行方や本邦の第2四半期GDP・一次速報にも注目したい。
(川畑)

(予想レンジ: 75.00～82.20円)

今月の注目材料

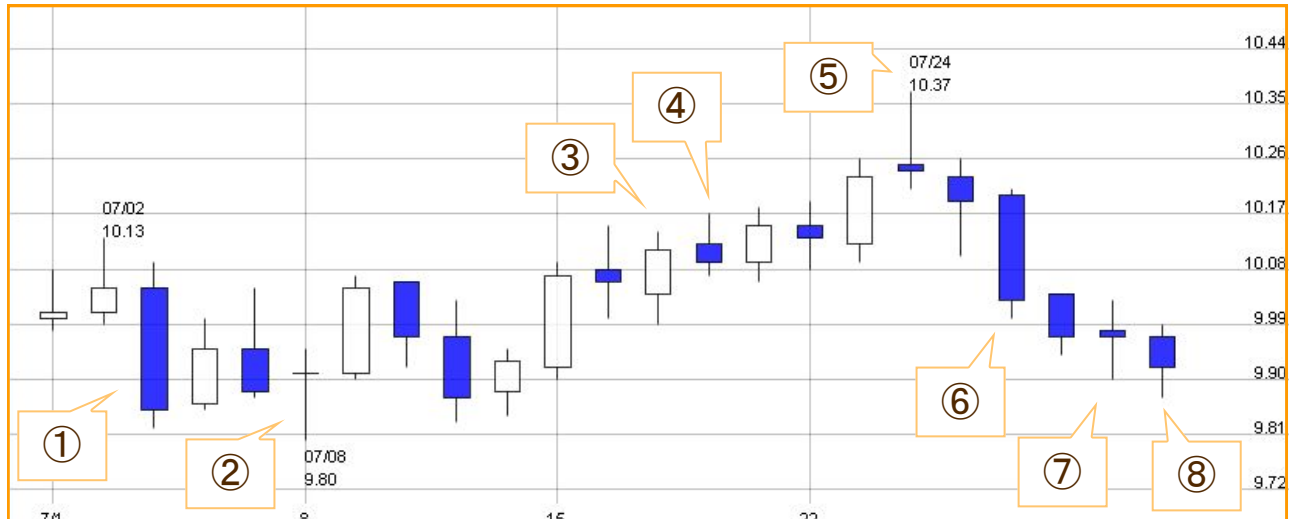
※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
8/1(木)	7月中国製造業PMI	8/12(月)	第2四半期日GDP・一次速報
	欧州中銀金融政策発表	8/13(火)	7月米小売売上高
	7月米ISM製造業景況指数	8/14(水)	第2四半期NZ小売売上高指数
8/2(金)	7月米雇用統計	8/16(金)	8月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
8/5(月)	7月米ISM非製造業景況指数	8/19(月)	第2四半期NZ生産者物価
8/7(水)	第2四半期NZ失業率	8/21(水)	FOMC議事録(7月30・31日分)
8/8(木)	7月中国貿易収支	8/22(木)	8月中国HSBCフラッシュ製造業PMI
	日銀金融政策決定会合(7日～発表)	8/26(月)	7月NZ貿易収支
8/9(金)	7月中国消費者物価指数	8/29(木)	第2四半期米GDP・改定値
	7月中国鉱工業生産	8/30(金)	7月NZ住宅建設許可

ZAR/JPY

ランド/円 7月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	10.00円	10.37円	9.80円	9.92円



- ① 3日、前々日、前日とポルトガルで閣僚の辞任が相次いだ事から同国の政局不安が高まり、同国の10年債利回りが急上昇すると共に欧州株が下落。欧州債務問題に対する警戒感からリスク回避ムードとなり、ランド/円は一時9.82円まで値を下げた。
- ② 8日、南アのプラチナ生産最大手のアムプラツの鉱区で発生した非合法ストを背景にランド売りが強まり、ランド/円は一時9.80円まで下落した。
- ③ 17日、南ア5月小売売上が前年比+6.2%と市場予想(+2.0%)を大きく上回った事を受け、ランド/円は小幅に値を上げた。
- ④ 18日、南ア準備銀行(SARB)は金利の据え置きを発表。声明では今年第3四半期にはインフレ率がSARBの目標レンジ(年3~6%)を一時的に上回るとした他、今年の経済成長率を+2.0%と5月時点(+2.4%)より下方修正したが、市場の反応は薄かった。
- ⑤ 24日、欧州株高を背景にランド/円は10.37円まで上昇するも、その後は米長期金利の上昇を背景にドル/ランド相場でもドル買い・ランド売りが優勢となり、これに連れて値を下げた。なお南ア6月消費者物価指数は前年比+5.5%と予想(+5.8%)より弱い内容となったが、ランド/円相場の反応は限られた。
- ⑥ 26日、日経平均株価の下げ幅拡大や欧米株の下落を背景に、ランド/円は一時10.00円まで下落した。金や原油相場の下落も重石となった。
- ⑦ 30日、南ア第2四半期失業率が25.6%と予想(25.4%)より弱い内容となり、ランド/円は値を下げた。時間外の日経平均先物や、欧州株の下げも重石となった。
- ⑧ 31日、日経平均株価の失速を背景としたドル/円の軟調推移に連れて、ランド/円は一時9.87円まで値を下げた。なお南ア6月貿易収支が77億ランドの赤字と事前予想(89億ランドの赤字)より赤字幅が縮小したが、ランド/円相場の反応は限定的であった。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

今月のポイント

7月のランド/円相場は9.80円～10.37円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約1.0%の下落(ランド安・円高)となった。上旬は南ア国内のストによりランド/円は下落し、中旬に入り株高を受けて値を上げるも一時的。下旬はドル/円の下げに連れて反落。月を通じて、上値の重さが目立つ展開となった。

8月のランド/円相場は、南アの国内要因が上値を重くする可能性がある。国内では依然としてストや電力不足が懸念されており、いずれも早期解決の可能性が低い。足下では国内景気が悪化する一方、インフレ率は高止まりとなっており、市場ではSARBが当面の間緩和的な金融政策を継続するとの見方が強い。更に中国経済の鈍化懸念もあり、ランドを買う材料が乏しいと言える。主要国の株価が上昇する場面では、一般的な「リスクオン」ムードによりランド/円にも買いが入る事が予想されるものの、その勢いは将来的な利上げが視野に入っているNZやカナダと比べ劣るだろう。(川畑)

(予想レンジ:8.90～10.50円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
8/1(木)	7月中国製造業PMI	8/13(火)	7月米小売売上高
	欧州中銀金融政策発表	8/14(水)	6月南ア実質小売売上高
	7月米ISM製造業景況指数	8/16(金)	8月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
8/2(金)	7月米雇用統計	8/21(水)	7月南ア消費者物価指数
8/5(月)	7月米ISM非製造業景況指数		FOMC議事録(7月30・31日分)
8/8(木)	7月中国貿易収支	8/22(木)	8月中国HSBCフラッシュ製造業PMI
	日銀金融政策決定会合(7日～発表)	8/27(火)	第2四半期南アGDP
8/9(金)	7月中国消費者物価指数	8/29(木)	7月南ア生産者物価指数
	7月中国鉱工業生産		第2四半期米GDP・改定値
8/12(月)	第2四半期日GDP・一次速報	8/30(金)	7月南ア貿易収支

巻頭の特記事項を必ずお読みください。